

セットアップ手順の概要

ソース管理ツール SMSYS(以下「当アプリ」)はMAGIC開発環境のソースファイルにアクセスし、開発作業の支援を行うことを目的としています。

- このため、開発中のプロジェクトにアクセスするための環境の設定が前提になります。
インストールはxpa3.2で作成したプロジェクトを開発版で開き、所定のプログラムを実行することで行います。

- 解析結果を保存して、変更分のみ再解析を行うことが可能です。

- セットアップの手順、実行までの流れをまとめると下記のようになります。

2種類の起動モードと起動方法

当アプリには「通常」、「PRO」指定、の2種類の起動モードがあります。
「PRO」指定、モードは起動時にプロジェクトが指定されたモードで、解析データを保存するデータベース等の環境条件を限定しているため、起動後にはプロジェクトの変更ができません。
これに対して、「通常」モードは起動後、別のプロジェクトに変更できますが、解析データの設定条件が異なる場合はその環境を切り替えるために自ら再起動して処理を行うモードです。
一般的に開発版からプロジェクトを開く場合は「PRO」指定、モード、デスクトップに作成したショートカット等で起動する場合は「通常」モードになります。

	起動後のプロジェクトの変更	解析DB設定の異なるプロジェクトを開く時の動作	起動場所	同一プロジェクトの起動	
通常モード		確認ダイアログ表示後、再起動	ショートカット等	×	
PROJ指定モード	×	起動時にセットし新インスタンスで起動 (パッチ「SMSYS.COMD」を使用)	ユーザ定義開発メニュー や起動済のインスタンス		

通常モード

PROJ指定モード

ショートカット (*.LNK)

バッチファイル SMSYS.CMD

MAGIC Xpa 開発エンジン Ver 3.x Ver 4.x

プロジェクト1

プロジェクト2

書き替

MAGIC Xpa 実行エンジン

ソース管理ツール

xap ver 3.x, 4.x uniPaaS V1, V1Plus,

再起

MAGIC.INI

解析DB1

解析DB2

変更 / 呼出し

DBMS (MS-SQL, SQLite等)をプロジェクト単位に設定

「PROJ指定」モードでは、新しいインスタンスを起動します。その際の受け

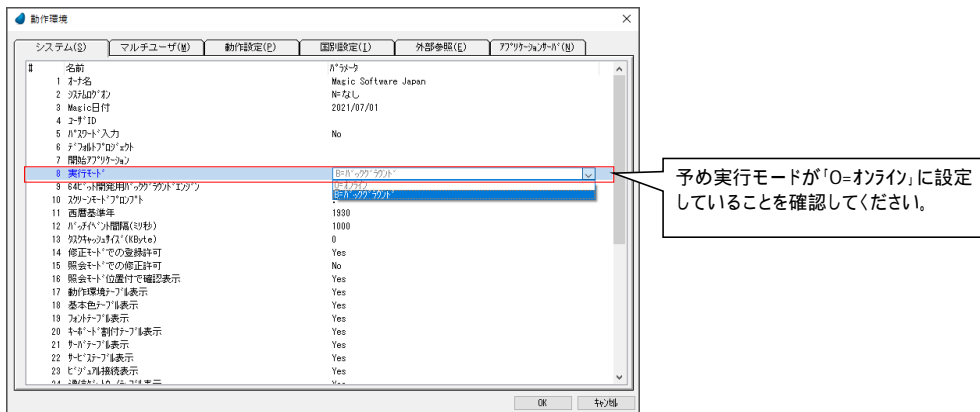
1.アーカイブの解凍

ファイル「SMSYS.X###.zip」を任意のフォルダに展開します。
展開後のフォルダイメージは下記の通りです。

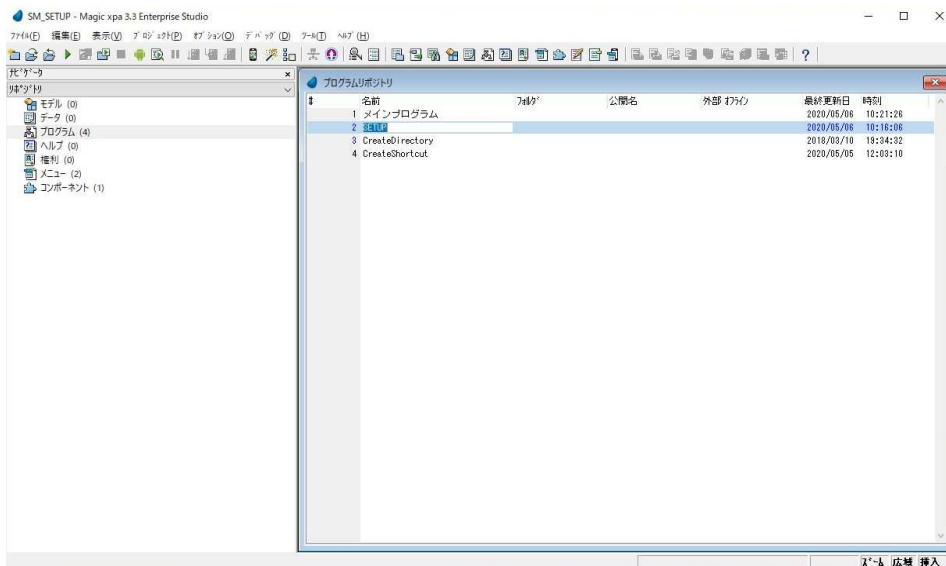
SMSYS.X###	
README.txt	「はじめに読む」テキストファイル
SMSYS - セットアップ手順.pdf	当ドキュメント
DEVELOP	開発用資料
SM_SETUP	インストール用プロジェクト「SM_SETUP」フォルダ
SM_SETUP.edp	「SM_SETUP」プロジェクトファイル
Source	「SM_SETUP」ソースフォルダ
Exports	「SM_SETUP」Exportsフォルダ(空)
Data	SMSYSインストールデータ
DLL	SMSYSインストールデータ (DLLファイル)
UPDATE_FILES	前バージョンからの差分のみ格納

2.開発版でのインストール

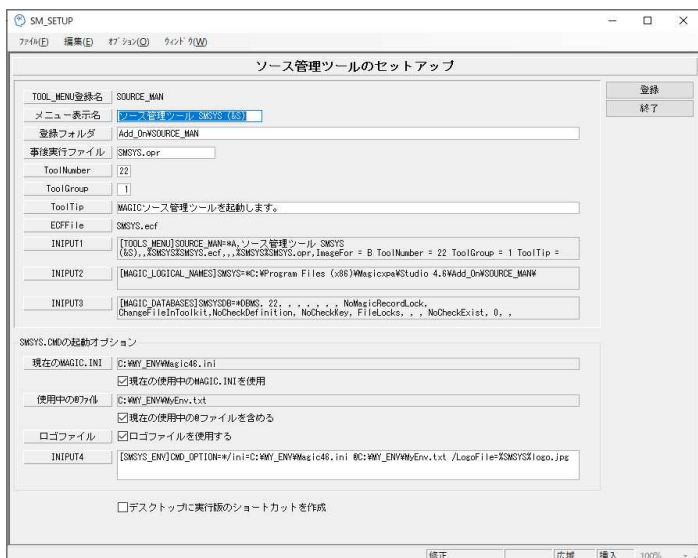
- ⑩ 動作環境の実行モードが「B=バックグラウンド」に設定されている場合はプログラムが実行できません。
予め、「O=オンライン」に変更して下さい。



Magic xpa 3.x EnterpriseStudio、Magic xpa 4.x EnterpriseStudio (Version は3.2以降) でプロジェクト「SM_SETUP」を開きます。

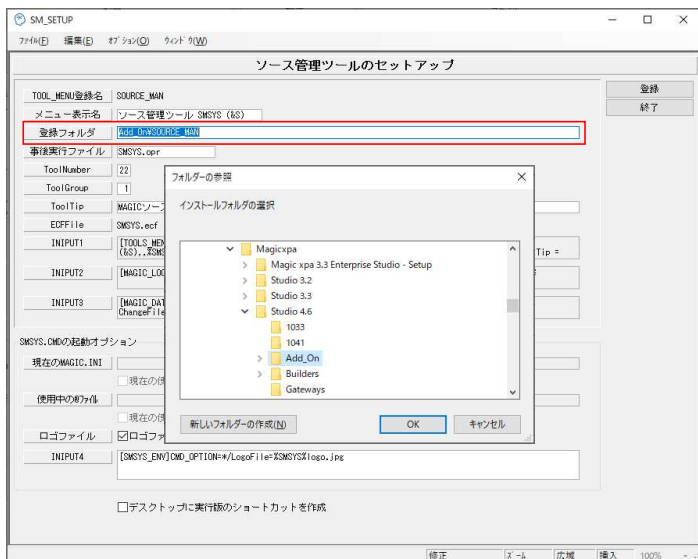


プログラムリボジトリの「SETUP」を実行します。



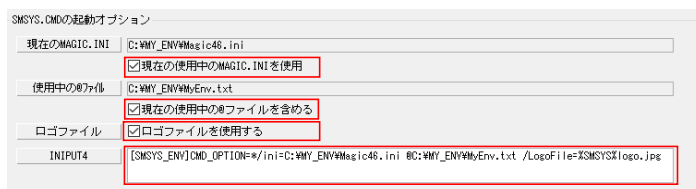
メニュー名 「メニュー表示名」を変更することが可能です。

登録フォルダ 初期値はシステムフォルダの下に「Add_On*SOURCE_MAN」ですが、「F5:ズーム」で任意のフォルダを選択することが可能です。



SMSYS.CMDの起動オプション

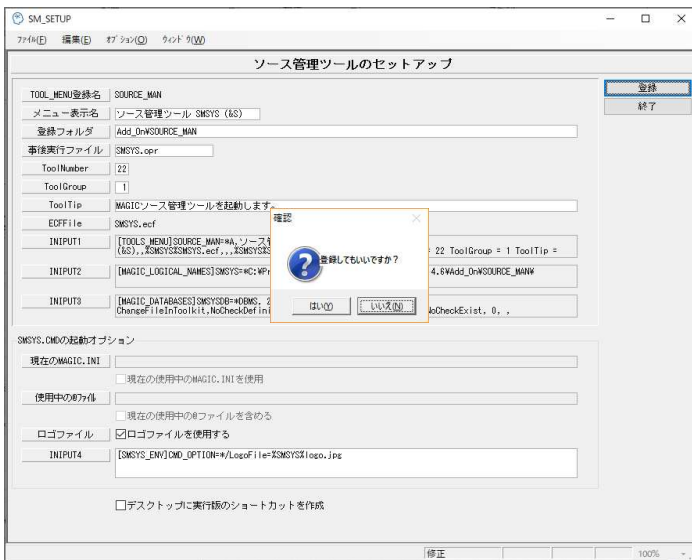
起動中のコマンドラインに 「MAGIC.INI の指定」、 「@ファイル(コマンドファイル)」の指定がある場合は、そのオプションの指定を含めるかどうかを指示することが可能です。
また、ロゴファイルの表示有無を指定します。



それ以外のオプションの指定が必要な場合は直接「INPUT4」を編集することができます。

ショートカット 起動用ショートカットを作成する場合は、「デスクトップに実行版のショートカットを作成」をチェックします。

「登録」ボタンを押してインストールを実行します。

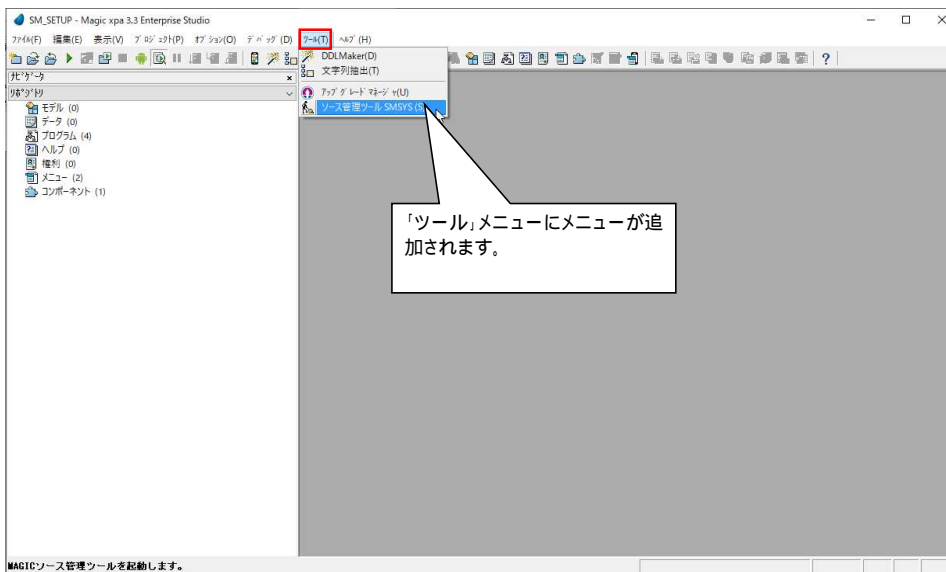


インストールに成功すると下記のダイアログが表示されます。
指示に従ってMagic xpaを再起動してください。

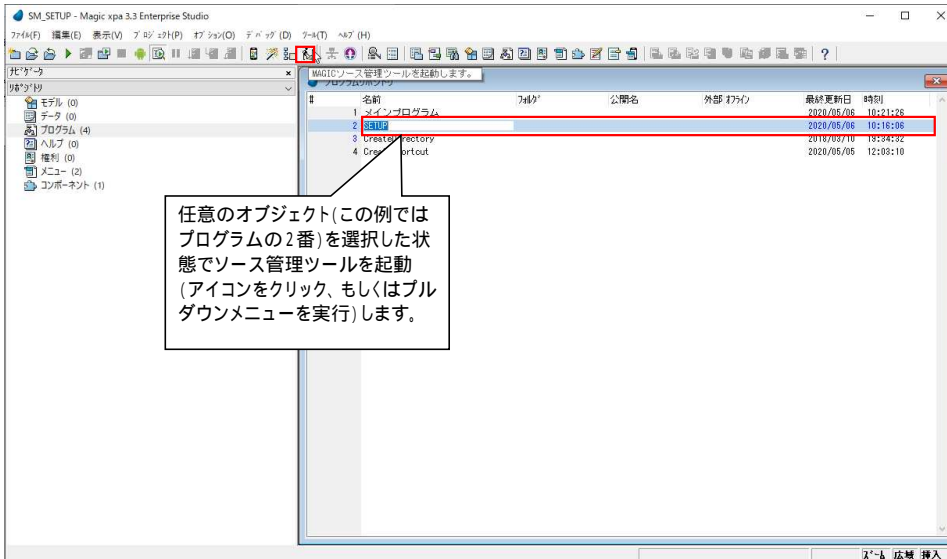


動作を確認 (ユーザ定義開発メニュー)

イ) 再起動を行った後、任意のプロジェクトを開きます。

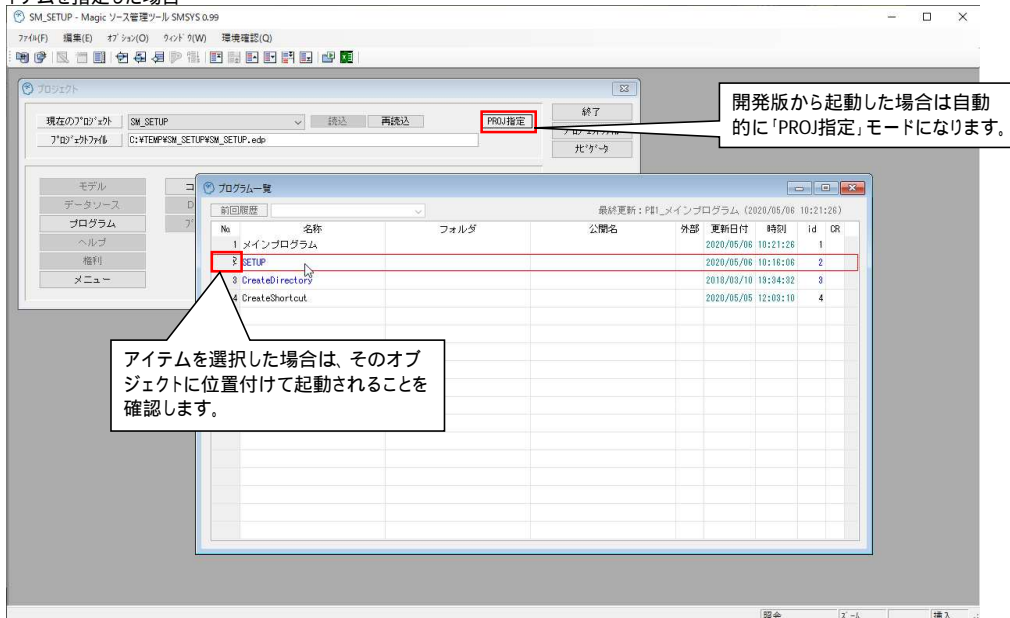


g) 任意のオブジェクトを選択し、ソース管理ツールを起動します。

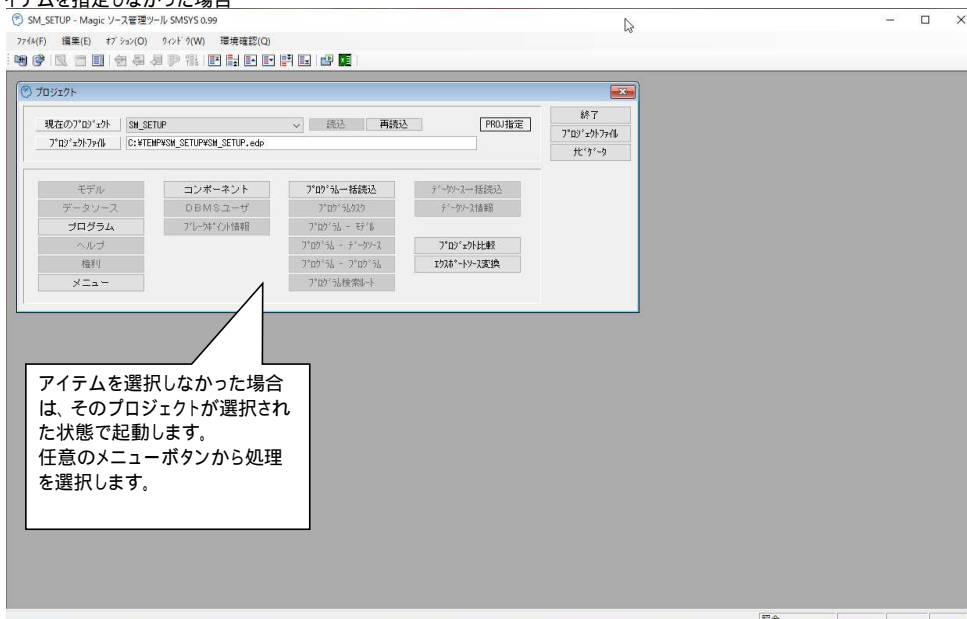


h) ソース管理ツールが起動されることを確認します。

アイテムを指定した場合



アイテムを指定しなかった場合

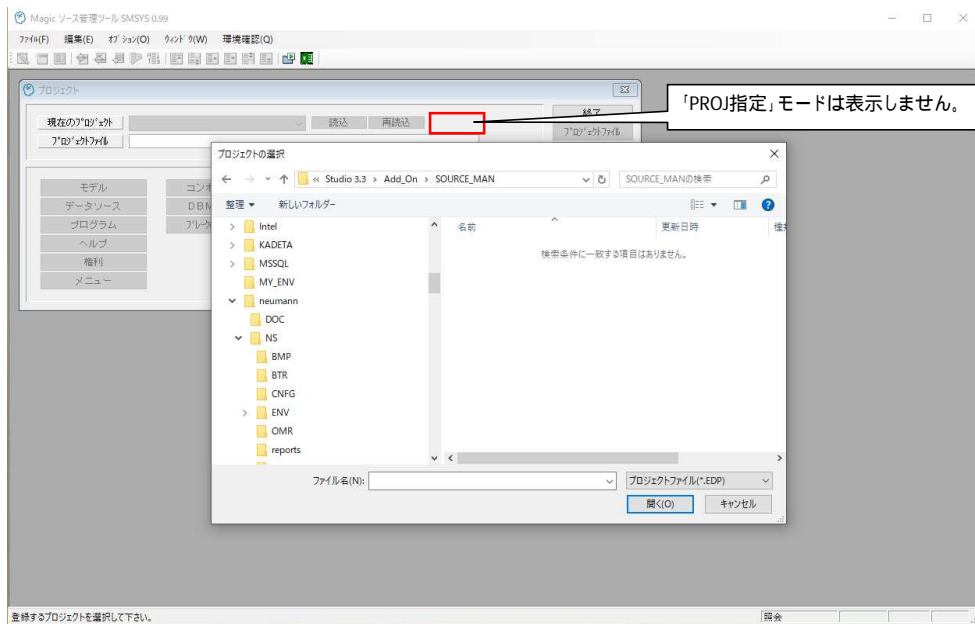


動作を確認(単独のアプリケーション)

デスクトップにショートカットを作成した場合はダブルクリックしてアプリケーションを起動します。

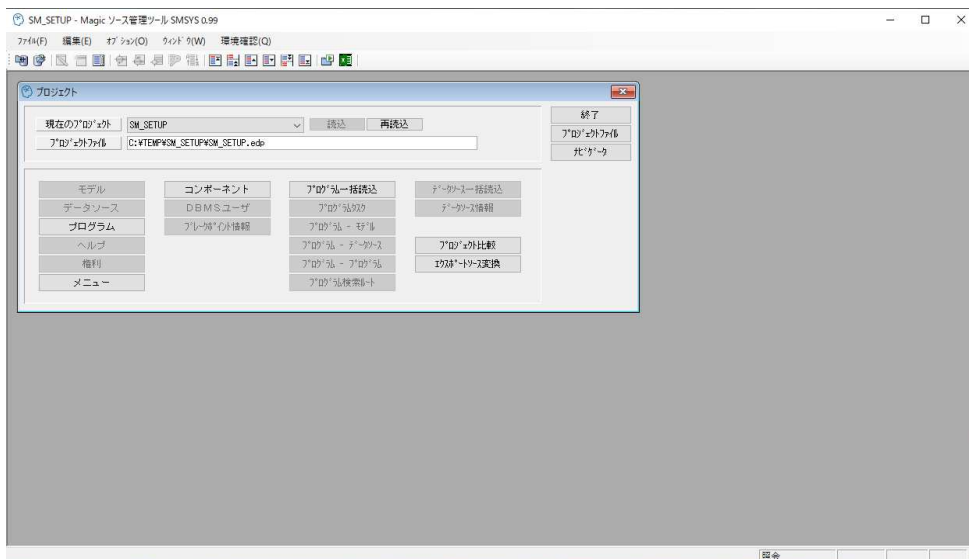
イ) プロジェクトが未登録の場合

プロジェクトが未登録の場合はファイルを開くダイアログが起動されますので、任意のプロジェクトファイルを選択します。



インストールフォルダ内の「Projects.xml」を削除することにより、いつでもこの状態に戻すことが可能です。

ロ) 登録済のプロジェクトがある場合は最後に起動したプロジェクトを表示します。



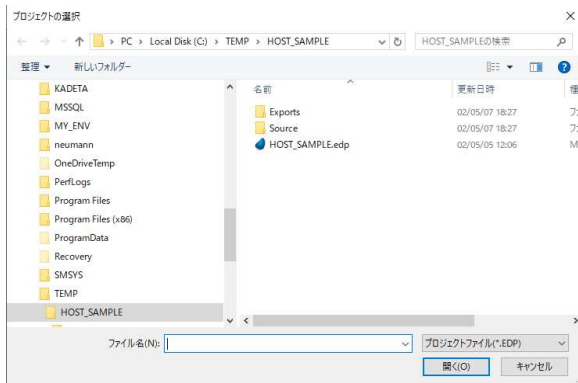
基本操作

イ) プロジェクトの追加

コンテキストメニューから「プロジェクトの追加」を選択します。



「プロジェクトの追加」ダイアログが表示されるので、プロジェクトファイル(*.edp)を選択します。



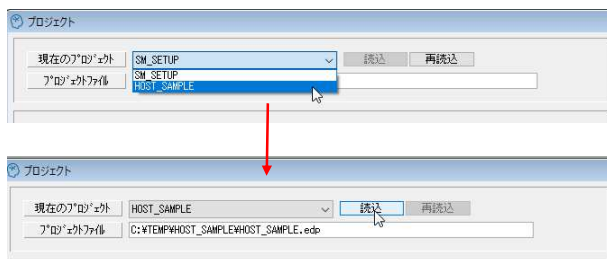
プロジェクトファイルを下图点線領域にドロップすることにより追加することも可能です。



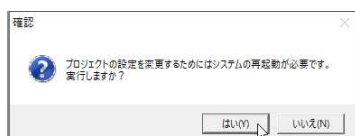
その他、開発版で開いたプロジェクトの一覧から選択する方法もあります。(「環境設定」「プロジェクト一覧」「最近のプロジェクト読み込」)

ロ) プロジェクトの変更

「現在のプロジェクト」を変更することにより、プロジェクトの変更が可能です。



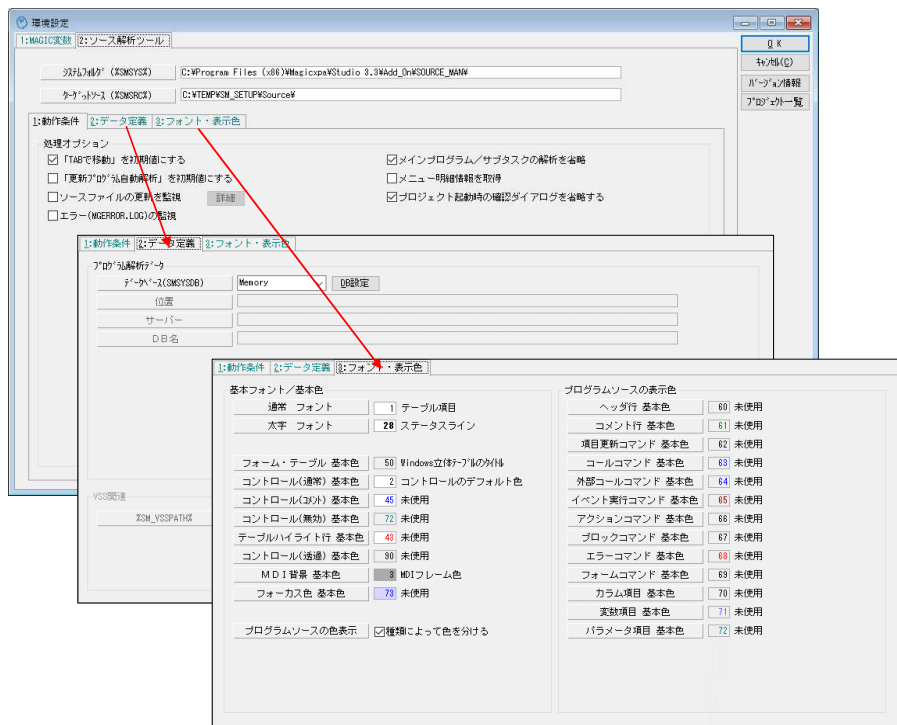
このコンボボックスでプロジェクトを変更できるのは、プログラム解析データにDBMSを設定していない場合です。変更前のプロジェクト、変更後のプロジェクトの何れかにプログラム解析データが設定されている場合は、下記の確認メッセージが表示します。



h) 環境設定

プルダウンメニューから「環境設定(Q)」を選択します。

動作条件の設定(処理オプション)、データ定義(プログラム解析データの設定)、フォントや表示色の設定等、当アプリの環境を設定します。また、「プロジェクト一覧」ボタンにより、登録済みプロジェクトを確認したり、編集することが可能です。



ニ) プログラム解析データのDBMS利用

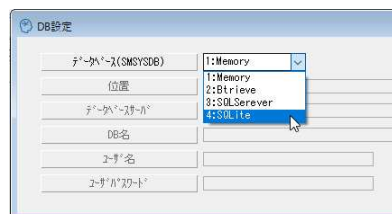
プログラムの一覧からF5ズームにより、ソース内容を表示しますが、そこで取得したデータをプログラム解析データと呼ぶことにします。ゲートウェイによる違いは下記の通りです。

	選択可能なDBMS	保存 / 読込	SQLメニュー 利用	DB共有	特記事項 用途等
1	Memory	メニューによる手動操作 (「データの保存」「保存データの読込」)	×	×	規定値 大規模なプロジェクトは制限を受ける？
2	Btrieve	自動	×		SQL用の処理がないため若干高速？
3	Microsoft SQL Server	自動			推奨
4	SQLite	自動		×	推奨 可搬性良

環境を設定プログラムのデータ定義タブを開き、「DB設定」ボタンを押します。



データベースを選択します。



選択したデータベース別に位置、データベースサーバー、DB名等を設定します。



	DBMS	位置	データベースサーバ	DB名	ユーザ名 / ユーザパスワード
2	Btrieve	保存先パス名	-	-	-
3	Microsoft SQL Server	-	接続先サーバ名	データベース名	SQLサーバ 認証時のユーザ名とパスワード
4	SQLite	DBファイル名	-	-	-


プルダウンメニューから「環境設定」を開きます。
「プロジェクト一覧」ボタンを押すとプロジェクトの一覧を表示します。
不要なレコードは削除(修正モード変更後「F3」キー)できます。
パス名等が変わったときは、このテーブルを直接変更することが可能です。
「最近のプロジェクト読み込」ボタンを押すと、開発版の履歴から未登録のプロジェクトを追加することも可能です。



トラブル時の対処

環境の変更等により正しく動作しなくなった場合は、下記のような対処を行ってください。

a) インストール用プロジェクト「SM_SETUP」を再実行する（起動できなくなった場合など）



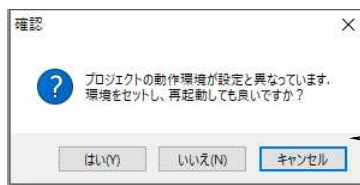
「登録」を実行することにより再インストールを行います。

既にMAGIC.INIの設定値 (TOOLS_MENU\SOURCE_MAN) がある場合は、その内容を読み込み表示されています。登録フォルダの設定により、インストール先を変更することが可能です。

起動中のコマンドラインを読み取って、その内容を読み込み表示されています。使用するMAGIC.INI等を変更することが可能です。

入力した「メニュー表示名」からファイル名を決定しています。同名のショートカットファイルを更新します。

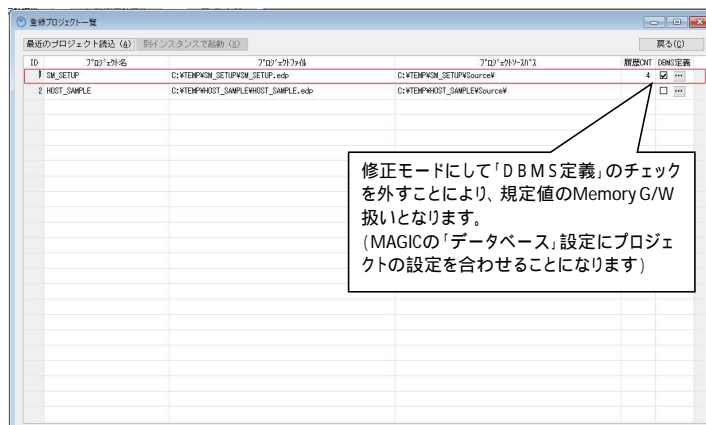
MAGIC.INIの[MAGIC_DATABASES]SMDBSYSの値を書き換えるため、再インストールを行った後は下記のメッセージが表示されることがあります。指示に従い、環境をセットし再起動してください。



「はい」で環境値を更新後、再起動します。(推奨)
「いいえ」で環境値を変えず、そのまま起動します。
→ 起動後、b)の方法で一旦メモリゲートウェイに設定値を戻すことによりこの警告を解消させることが可能です。
「キャンセル」で起動を中断します。

b) プロジェクト管理ファイルの編集を行う（特定のプロジェクトが起動できない場合など）

登録プロジェクト一覧を修正モード(「オプション(O)」 「修正(M)」)にし、該当プロジェクトの設定を編集します。



修正モードにして「DBMS定義」のチェックを外すことにより、規定値のMemory G/W 扱いとなります。
(MAGICの「データベース」設定にプロジェクトの設定を合わせるようになります)